



環境基金キャンプの様子

任意団体 みんなの学校

地球キャンプカウンセラー養成、 持続可能な次世代型 循環環境教育モデルの構築

入門助成

1年目

実践

植樹活動、農業体験
イベントの実施

69人

児童キャンプの
イベント実施

28人

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

大分市近郊には、里山の資源が残る土地がある。また大分市の可燃ごみは、生ゴミが約5割をしめる。環境に対する意識を持った市民を育成するモデルを構築したい。

目標

持続可能な農業、教育のコンパクトな循環モデルの構築を行いたい。環境意識を持った市民の育成、生ゴミコンポストの普及、そして環境教育に特化したキャンプ場とキャンプのモデルの構築を目標とした。

活動内容

解決のために、家庭用生ゴミコンポストの開発を行い、普及活動のため敷地内のカフェとの連携を行った。環境意識を持った市民の育成のために自然エネルギーや有機農業についてのワークショップを地域で実施。養成講座では大学生にごみ問題の勉強会などを実施した。子ども参加のキャンプでは生ゴミコンポストや自然エネルギーを活用したプログラムを軸に環境問題に体験的にふれることで参加後に子どもにも多くの意識の変化が生じた。



コンポスト作りワークショップ

達成できなかったこと

家庭用コンポストの普及活動が当初の予定より66%少なかった。家庭で生ゴミ処理により経済的にメリットがあることを提案できなかったことに起因する。

今後の展望

生ゴミコンポストを野菜プランターと合わせて普及したい。またモデルを他団体とも連携して普及活用したい。

成果と工夫したポイント



成果

モデル地に訪れる人や、団体利用など年間でおおむね延べ600名ほどあった。学生など次世代を担う若者が環境プログラムに年間で延べ159名参加した。

工夫

地域の学生と連携をとった。見学者を受け入れて案内をすることで口コミで広まった部分があった。